

平成31年度 岐阜県美術館 事業計画

岐阜県美術館は、開館以来36年を経過し、老朽化した空調設備、電気設備、給排水衛生設備等の改修のため、平成30年11月4日から平成31年11月2日まで1年間休館し、利用者の利便性・安全性向上のためのリニューアル工事を併せて実施する。

休館中は、美術作品の調査研究、保存管理を継続するとともに、教育普及事業をアウトリーチ（館外活動）する。

リニューアルオープン時には、アウトリーチで得た成果を美術館へインリーチ、展示するとともに、2020年に向けての美術のあり方を考える企画展を開催。所蔵品展、企画展、インリーチ展の3つの展示の同時開催により、賑わいを創出するとともに、さらに多くの人々に親しまれる美術館となるよう、展示内容の多様化、充実を図る。

1 美術館施設の改修

平成30年11月4日から平成31年11月2日まで1年間休館し、老朽化した空調設備、電気設備、給排水衛生設備等の改修を行うとともに、利用者の利便性・安全性向上のためのリニューアル工事を併せて実施する。

(1) 改修工事内容

- ・空調設備、電気設備、給排水衛生設備、消防設備等の改修
- ・図書館とのエリア一体化（南門の正門化）
- ・ユニバーサル対応及び利用者の安全性向上のための改修（庭園内スロープへの手すり設置、多目的トイレの改修、案内サインのユニバーサル化）
- ・美術品保全環境の向上のための改修（国際基準に適合した温湿度管理の実施、展示室入口への自動扉設置）
- ・展示室の3室運用化（中庭部分を回廊とし、展示室2の独立運用化）
- ・コンシェルジュコーナーの設置（美術館ホールにおける総合案内機能）
- ・アートコミュニケーター活動スペースの設置、サポーター活動拠点の設置、キッズコーナーの設置（館内レストランの廃止）
- ・カフェスペースの設置（多目的ホール）
- ・庭園樹木の剪定、整頓
- ・Wi-Fi設備の設置 など

(2) 改修工事費・施工体制等

- ・総事業費：約25億円
- ・工期：平成30年10月12日～平成31年10月22日
（主たる改修工事）

- ・主な工事：本館棟等建築工事 6億1,500万円
(大日本・TSUCHIYA特定建設工事共同企業体)
- 本館棟等電気設備工事 5億2,300万円
(安田電暖・高橋特定建設工事共同企業体)
- 本館棟等空調設備工事 7億7,400万円
(大東・ダイワ特定建設工事共同企業体)
- 本館棟等衛生設備工事 2億4,400万円
(株)三愛)

2 収集

(1) 美術品収集方針

近代および現代における芸術的価値の高い美術品並びに美術資料を収集保存し、調査研究を進め、その成果を広く県民に展示公開する。

部門：絵画、彫刻、工芸

基準：①岐阜県にゆかりのある作家の作品で代表的なもの、およびその作家のねらいや制作の過程等がうかがえる資料

②日本の近現代美術の流れを展望するのに相応しい作品

③世界の美術動向の中で、特に創造性に優れた作家の作品

④その他、岐阜県美術館の収蔵品として相応しい作品および資料

<収集の重点>

ア 収集方針に則って所蔵作品を補完補強し、より充実させる収集活動を推進する。

イ 郷土ゆかりの日本を代表する近現代の洋画家「山本芳翠」「熊谷守一」や、日本画家「前田青邨」「川合玉堂」、陶芸家「荒川豊蔵」を始め、岐阜県の輩出した作家の作品、資料の充実を図る。

ウ 19世紀フランス象徴主義の画家「オディロン・ルドン」の作品収集を継続し、世界に誇れるルドン館として国内外に広くアピールするために、ルドン作品400点を目標に収集するとともに、その関連作家の作品の充実も図る。

エ 県民のニーズを鑑み、企画展と関連した近現代の作家の作品や、世界の優れた美術作品を収集する。

(2) 収集委員会の開催

平成31年度中に開催（開催時期未定）

3 保存管理

(1) 作品の保存修復

休館に向けて、収蔵作品の状態確認と保管方法について精査するとともに、

- リニューアルオープンに向けて、作品の修復、額縁調整、画像解析等を行う。
- (2) I P M (Integrated Pest Management : 総合的有害生物管理)
人や環境に配慮し、I P Mに基づいた日常管理を行う。
- (3) 空気環境調査
恒温恒湿下における展示保管時の空気環境調査を行う。

4 展示

(1) 所蔵品展 (展示室1)

日比野克彦ディレクションのもと、全ての来館者を対象にアートを身近に楽しむためのキーワード「ナンヤローネ」を掲げ、様々なテーマで美術館の所蔵品を紹介

- ・リニューアルオープン特別企画1

美術館の名品を1年ぶりに改めて紹介

会期：令和元年11月3日(日・祝)～12月22日(日)(予定)

- ・リニューアルオープン特別企画2

現代美術コレクションを中心に紹介

会期：令和2年1月4日(土)～3月29日(日)(予定)

(2) 企画展 (展示室3)

- ・「美術と教育展」(仮称)

学校現場において美術教育の時間は減少する一方だが、美術館や大学は社会に対してどのようにアプローチしていくのかを、実際の美術の授業の様々な試みを通して考える。東京藝術大学の美術学部長であり美術館長である日比野克彦のディレクションにより、東京藝術大学と岐阜県美術館の連携事業として、大学や他県の事例と併せて、岐阜県の事例を展示、検証する。

会期：令和元年11月3日(日・祝)～令和2年1月5日(日)

- ・「A i M&まるけ・インリーチ」(仮称)

休館中、館外で展開してきたアーティスト・イン・ミュージアムやアートまるケットの活動成果を展示物やアーカイブで紹介。

会期：令和元年11月3日(日・祝)～令和2年1月末(予定)

(3) アートまるケット(展示室2、他)

5回目の本年は、新展開として、県内各地で行われているアーティスト・イン・レジデンスや様々なアート活動を調査し、美術館に集約。美術館が県内のアート活動のハブとなり、紹介する。

会期：令和2年3月3日(火)～6月14日(日)

会場：岐阜県美術館 展示室2ほか

招聘作家：森下真樹（舞踏家）など

5 作品貸出

国内外の美術館からの作品借用依頼について、条件等を確認のうえ館内で検討して対応する。

（休館に伴い、令和元年10月まで館外貸し出しを休止する。）

6 調査研究

(1) 作品収集のための調査研究

- ・郷土作家の調査研究
- ・国内外の近現代美術の調査研究

(2) コレクションの活用と研究

- ・企画展、所蔵品展のための調査研究と準備、展覧会の実施
- ・移動美術館「ナンヤローネミュージアム」（タルイピアセンター）及びスクールミュージアム（加納高校）の準備・実施
- ・休館中の他館でのコレクション活用

(3) 美術館印刷物の編集・発行

- ・『岐阜県美術館年報・研究紀要』の準備・編集・発行
- ・企画展の広報用印刷物等の編集・発行
- ・その他、館内印刷物の編集補助

(4) 所蔵品の保存と修復

- ・所蔵品展及び企画展と連動した作品調査とその移動・保管
- ・リニューアルオープンでの活用に向けての作品の修復・保全
- ・当該作品の修復並びに複合素材からなる収蔵作品の保管方法についての調査研究

(5) リニューアルオープン後に開催予定の展覧会の準備と調査

- ・大橋翠石展、19世紀西洋美術展、国内の洋画名品展、著名美術館所蔵品展等の準備と調査研究
- ・オディロン・ルドン展及び山本芳翠展のための国内外調査及び収集準備
- ・アートまるケット、アーティスト・イン・ミュージアム等の招聘作家によるインリーチ展についての調査・研究

7 教育普及事業

(1) ナンヤローネアートツアー

新しい鑑賞方法《Such Such Such（あんな・そんな・こんな）》を用いて美術館の企画展示や所蔵品展示を鑑賞する体験プログラムを実施する。

平成31年度は11～3月の計5回実施（予定）

- (2) ナンヤローネットワークショップ
美術を気軽に楽しむためのキーワード「ナンヤローネ」を大切にしたワークショップを作品や美術館をテーマに毎回内容を変え、時には美術館を飛び出して開催する。
平成31年度は11～3月の計5回実施（予定）
- (3) じっくりワークショップ
様々な分野の技法に触れながら、じっくりと時間をかけて行う、事前申込制のワークショップを開催する。
平成31年度は組紐を予定
- (4) 団体鑑賞
学校や一般団体などの申し込みを随時受け付け、美術鑑賞のガイダンス、展覧会の解説などを行う。
- (5) アーティスト・イン・ミュージアム（AiM）および「Meets」
AiMは、招聘した作家が滞在型公開制作を行う、アーティスト・イン・レジデンス事業。休館中は平成30年度に引き続き、館外の施設での滞在制作を「Meets」と題して行う。平成31年度は県図書館で実施。リニューアルオープン後は、新しくなった実習棟でAiMを実施。
- ・岐阜県図書館
時期：令和元年8月6日（火）～9月23日（月・祝）
場所：岐阜県図書館 2階展示室
招聘作家：宮田篤、笹萌恵
 - ・岐阜県美術館
時期：令和2年2月4日（火）～3月22日（日）
場所：岐阜県美術館 実習棟
招聘作家：三輪祐子

8 施設の貸出

- (1) 一般展示室（県民ギャラリー）
平成30年度中に使用の内定をした美術団体等に、一般展示室を1週間単位で貸し出す。
貸出予定：28団体
- (2) 講堂、多目的ホール、野外展示場
申請に応じて、使用内容を審査したうえで、貸出を行う。
- (3) 庭園の利用
リニューアルオープン後、ブライダル撮影や学校等の校外活動など庭園の利用申請があった場合は、業務に支障がない限り認める。

9 他館・地域との連携

(1) 移動美術館「ナンヤローネミュージアム」

美術品の展示機能を備えた飛騨、東濃、西濃地区等の施設において、美術館所蔵作品を鑑賞することのできる機会を提供する。

会期：平成31年4月～5月（予定）

会場：タルイピアセンター（垂井町）

(2) 出前講座

市町村等からの要望に応じ、鑑賞活動や制作活動に職員を派遣する。

10 教育機関との連携

(1) スクールミュージアム

県内高等学校等と連携して、美術館が所蔵している美術品を学校内に展示するとともに、鑑賞教室を行う。

時期：令和元年6月（予定）

場所：岐阜県立加納高等学校（岐阜市）

(2) 教職員研修

図工美術科の教職員など教育関係者の各種研修会を要望に応じて受け入れ、または出前講座の形態により、対話型鑑賞方法や新しい鑑賞方法《Such Such Such（あんな そんな こんな）》の活用による美術鑑賞のほか、画法・技法などの製作指導等を行う。

(3) 職場体験学習

中学校、高等学校などの生徒の職場体験の場として、要望に応じて受け入れを行う。

11 美術館コンシェルジュ【新設】

リニューアル工事により、展示室の拡大や、美術館ホールのイメージ一新など、館内施設の変動があると同時に、複数の展示の同時開催など、来館者への案内を充実させる必要がある。

美術館ホールにコーナーを設け、コンシェルジュを配置し、来館者への総合的な案内業務を行っていく。

12 アートコミュニケーター【新設】

リニューアル後の新しい美術館の取り組みとして、来館者と美術館をつなぐ、アートコミュニケーターを設置する。アートコミュニケーターは、アートを介して誰もがフラットに参加できるように対話の場をデザインし、様々な価値観を持つ多様な人々をつなぐ役割を担う。

(1) プロジェクトリーダーの設置

アートコミュニケーター設置にあたり、事業の総括やアートコミュニケーターの募集・研修などを行う、プロジェクトリーダーを設置する。

(2) アートコミュニケーターの業務

- ・来館者のアートに関する相談への対応
- ・アートに関する情報提供（イベント紹介、専門教育の場の照会 など）
- ・来館者の鑑賞補助（障がい者支援、託児など）、美術館コンシェルジュとの連携
- ・アーティスト・イン・ミュージアム招聘作家との連携
- ・美術館サポーターとの連携

1.3 美術館サポーター

美術館事業への県民の参加とボランティアによる支援体制の確立を図るため、美術館サポーターを設置する。美術館サポーターに対しては、学芸部職員がテーマを決めて随時研修会を開催する。

(1) 募集

通常年2回（4月、10月）

（平成31年度4月は休館中のため、実施未定。）

(2) 主な活動内容

- ・美術館情報活動（新聞の切り抜き、図書登録、アンケート集計など）
- ・教育普及支援活動（アートツアー、ワークショップの補助）
- ・資料発送活動（企画展広報物の発送作業）
- ・虫パトロール（IPM活動の一環として館内の虫やカビの発生状況を調査）

1.4 美術館後援会との連携

(1) パイプオルガン定期演奏会の開催

美術館後援会と共催で全国からパイプオルガン奏者を招へいし、毎月第2日曜日に多目的ホールにおいてパイプオルガン定期演奏会を開催する。

平成31年度は11月から3月まで、5回開催する。

(2) 他県美術館研修への職員派遣

後援会が主催する日帰りバス旅行において、後援会会員に鑑賞する美術展についてのレクチャー等を行う。（秋予定）

1.5 館外組織との連携

全国、あるいは県内の美術館関係組織に加入し、会議や研修会に参加して、専門的な情報の収集や職員間の交流により、館運営に資する。

(1) 全国組織

- ・全国美術館会議

- 美術館連絡協議会
 - 日本博物館協会
 - 都道府県立美術館副館長等事務責任者会議
 - 東海地区博物館連絡協議会
- (2) 県内組織
- 岐阜県博物館協会